

今できること、「考える」から「行動する」へ!
Hokkaido
ECO action!
北海道エコ・アクション

ホタルが灯す優しさを

守っていくために

水、緑、土、光、空気。
ホタルが生息するために欠かせない五つの要素、それらは地球の優しさそのものです。
昔、人が野山に居を構えようとしたときにホタルを探したそうですが、同じ五つの要素を求めたためでした。ホタルと私たちは、永い歳月を同じ環境のもとで暮らしてきたのです。しかし、ここ数十年の間に生息環境の多くを奪ってしまいました。私たちは気づきました、ホタルの優しい光を失いたくないと。まずホタルが生息できる環境を取り戻さなければなりません。結果的にそれは、私たちが心豊かに暮らすことにつながるのです。

いま全国各地で「ホタルの里」づくりが進められています。北海道でも沼田町、鶴居村、音更町、旭川市、小樽市、札幌市などを舞台に、健やかな環境を取り戻しながら、ホタルを育てて放虫するという活動の輪が徐々に広がっています。
この「ホタルの里」づくりに代表されるように、さまざまな分野でエコという優しさが、ポツポツと灯ってきています。そうした活動を続けていくことの大切さ、忘れないでください。
一人一人の優しさを、私たちの地球に。



「北海道エコ・アクション」ウェブサイト <http://eco.hokkaido-np.co.jp>

企画制作/北海道新聞社広告局

Homac

DCM Holdings

「カミネッコン」との出会いから
ホームマックの森づくりが広がりました。

「カミネッコン」は再生段ボールで作られたポット。ここに培養土を入れて苗木を2~3カ月育て、植樹する場所に置くとやがて根は地中に根付き、段ボールは徐々に土に分解されます。ポットに苗木を植える作業はどこでもでき、植樹も穴を掘る必要がないので簡単です。さらに根が段ボールで守られているために活着率が高いのが特長で、成長の早いヤナギやハンノキなら、5年もすると立派な林になります。北海道大学名誉教授の東三郎先生が提唱する「カミネッコン」と出会ったことにより、それまでの植樹活動に比べてホームマックの森づくりが大きく広がったのです。



「カミネッコン」による森づくりの例(北海道)
2002年、河川敷に植樹したカミネッコンが2007年にはこんなに成長し、根が育ちやすいことを証明しています。

北海道各地から東北へとつながる植樹の輪。
今年は21回5,070個を予定しています。

「カミネッコン」づくりにはホームマック社員はもとより、各地の店舗のお客さま、幼稚園や高齢者の施設、地域のイベントなどを通じて多くの方々に参加していただいています。「子どもたちの教育として有意義」「楽しみながら環境保全活動の役に立っている」と喜ばれています。植樹は店舗のスタッフを中心にいますが、地域の皆さまにご協力をいただく場合もあります。場所は伐採や採掘などで木を失った山、身近な公園など多彩で、北海道から、青森県、秋田県へとエリアを拡大しています。今年は11カ所で21回にわたり、5,070個の「カミネッコン」を植樹します。



花フェスタ2010札幌(6月26日~7月4日)・大通公園会場のホームマックブースでカミネッコンづくりが体験できます。

木々もみんなの 気持ちもすくすくと。 4年目を迎えた「カミネッコン」の森づくり。



カミネッコン



旭川市西神楽公園でホタルを育てて放虫している「旭川市西神楽ホタルの会」が整備している駐車場周辺に2008年から植樹を実施。(写真は2009年の植樹)

LION **トップ** エコプロジェクト

トップで、1ハコ1エコ!!

一度洗いでしっかりと落とす
CO2削減 51%カット

今トップを
お買い上げいただくと、
トップ1箱につき1円が、
川をきれいにする活動に役立てられます。
これまでに、総額 **22,085,561円** が集まりました。
※トップ1.0kgの2010年6月1日~8月31日までの当社出荷品と、
2010年のトップエコプロジェクト取組活動の全量が基金寄付の対象となります。

第3期「きれいな川と暮らそう」基金
※(社)日本河川協会の基金です。共同プロジェクトとしての基金に寄付します。

トップは、いちばん身近な水環境である「川」について考え、ふれあい、そして、もっと親しんでもらうために、(社)日本河川協会を通じて、売り上げの一部を河川の環境を守る活動に役立てています。これまでに35団体の活動を支援してきました。

●北海道中標津農業高校(北海道) ●河川愛護団体リバーネット21ながめ(北海道) ●住民参加の川づくり有志の会(北海道) ●弘前市立第一中学校(青森) ●NPO法人 環境生態工学研究所(宮城) ●NPO法人 いわき環境研究室(福島) ●村上市立金屋小学校(新潟) ●NPO法人 五泉トゲノの会(新潟) ●精進川河川愛護会(長野) ●余部川流域連携ネットワーク(栃木) ●三波川に石を戻す会(群馬) ●イトヨの星泉が森公園運営委員会(茨城) ●下妻市立高道祖小学校(茨城) ●NPO法人 八千代アイコス(千葉) ●NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会(東京) ●柏江水辺の楽校運営協議会(大阪) ●全国一斉一万人・川の清流体験実行委員会(東京) ●こたいら水と緑の会(東京) ●NPO法人 あらかわ学会(東京) ●NPO法人 鶴見川流域ネットワーク(神奈川) ●静岡県立静岡農業高等学校(静岡) ●NPO法人 グラウンドワーク三島(静岡) ●NPO法人 魅力発見木曾三川(三重) ●NPO法人 木曾川文化研究会(三重) ●奈良教育大学附属中学校(奈良) ●学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校(奈良) ●「私の水辺」大発表会実行委員会(大阪) ●幸仕橋からクラブ(徳島) ●波川まちづくり委員会(高知) ●高知県香川郡いの町立伊野南小学校(高知) ●芦田川環境マネジメントセンター(広島) ●筑後川まるごと博物館運営委員会(福岡) ●鶴ヶ池湧水会(佐賀) ●波佐見・緑と水を考える会(長崎) ●リバーフェスタのべが実行委員会(宮崎)

第3回) ぼくの、わたしの、川の絵コンテスト

あなたの大好きな川、思い出に残る川、そして、これからの未来において、こんな川があったらいいなと思う川を自由に1枚の絵に表現してください。とっておきの1枚の絵を描くことから、日本の川をきれいにする第一歩をはじめませんか?

◎テーマ:「いつでもきれいな、私たちの川」 ◎応募資格:①低学年以下の部(小学校3年生以下) ②中高学年の部(小学校4年生から6年生まで) ◎応募期間:2010年6月1日(火)~9月3日(金)消印有効 ◎賞:最優秀賞各1名/優秀賞各3名/審査員特別賞各5名/入選各50名/佳作各100名/参加賞 全員

たくさんのお子さんご応募お待ちしております。
詳しくは、店頭リーフレットまたはホームページで、

川の絵 検索

ECO FIRST eco LION

くらしに夢をひろげる LION